

保護者の皆様  
地域の皆様

世田谷区立多聞小学校  
校長 平間 学

## 令和6年度自己評価報告と令和7年度の基本方針について

世田谷区立多聞小学校学校関係者評価委員会の報告と提言を受け、自己評価と次年度の学校運営基本方針を以下にお示しいたします。

### 1 学校関係者評価報告書を受けた学校の回答

#### (1) 児童・保護者・地域アンケートについて

##### ポイント1 学習指導について（キャリア・未来デザイン教育の推進）

令和6年度も、「せたがや探究的な学び」及び「キャリア・未来デザイン教育」を授業研究（校内研究）を中軸に進めてきた。各教科・領域で、探究的な学びのプロセス（課題発見・問いの見だし／課学習の見通し・計画／協働的な学び・課題解決／振り返り・新たな課題の発見）を実践する中で、今年度は、学習の振り返りを丁寧に行い、新たな問いを見出すという点を重視した。児童アンケートの結果からは、昨年度に続き、分かりやすい授業の展開について高い評価を維持することができた。学習内容や活動内容によって学習方法を選択できるなど、個別最適な学習方法を取り入れる場面も増えてきている。次年度も、学習内容に応じた適切な指導方法を吟味しながら、児童の主体性の向上を目指し、更なる授業改善を図っていく。

##### ポイント2 学校からの情報提供

数年来の課題であった情報発信については、校務分掌内に教育DX及び情報発信の担当を設置し、各学年学習活動のホームページ掲載を日常的に行った。校内での改善に加え、PTAのIT化により、行事のオンライン中継などITを駆使した広報活動に大きく支えられ、学校全体の情報発信に関する評価の改善を図ることができた。今後は地域への発信を強化していく。他にも、年度内に学校協議会を2回実施し、全教員が保護者や地域の方と児童の健全育成について情報を共有する機会を設けたことや、学校行事の参観の機会や時間を増加させたことで、保護者や地域の方々が見守る学校での様子を把握することにつながった。次年度は、教職員が積極的にPTAや地域行事に参加するなど、ライフワークバランスに配慮しつつも、子どもを中心としたつながりが深まるようはたらきかけていく。

##### ポイント3 生き方や将来のことを考える学習

児童が、「自身の生き方や将来のことについて考える授業をしている」という項目では、分からないと回答した児童が3割以上確認でき、小学校の学習の中で、将来のことを意識させる活動が不足していることが確認できた。総合的な学習や特別の教科道徳で、将来、社会で自身の能力を生かし、自分らしく生きることができるようにするための学習を計画し、児童が将来のことについて興味をもち、イメージすることができる機会を設けていく。また、家庭とも連携を図り、自立に向けて必要な能力、キャリア教育の必要性について共有するとともに、家庭でも話題にしてもらえるよう、学校の取組を発信していきたい。

#### (2) 重点目標について

##### ポイント1 学習指導（キャリア・未来デザイン教育の実現）

- 校内研究「自分を高めようとする丘の子ども」の充実
- 校内研究を軸とした「せたがや探究的な学び」の確立と、課題解決的な学習の展開
- 児童全員が自分らしく学ぶための工夫（ICTの活用を含めた学習方法の選択
- すべての児童を学びの土台に乗せる学級内支援（第一次支援）の日常化

## ポイント2 豊かな人間性の育成

- 認め合い、助け合い、学び合う
- 自己肯定感・自己有用感の醸成
- 学校生活を楽しいと感じる充実感の育成
- すべての児童に居場所がある、安心して活動できるための相互理解と学級・学年団経営

## ポイント3 健やかな身体の育成

- 日常的な健康教育の推進
- 丘の子ベーシックをはじめとする体育教育の充実
- 安全に配慮した体育科の指導技術の向上

## 2 令和6年度から令和7年度にかけての学校状況の変化

- 児童数の増加に伴う学級増
- 一人一台タブレットの配備とデジタルリテラシーの醸成
- せたがやインクルーシブ教育ガイドラインに沿った校内支援体制

## 3 令和7年度教育課程編成における学校の基本方針

### (1) 教育目標

- ① 3つの教育目標及び目標とする児童の姿の変更はなし。
  - ・考える子ども……すすんで学び、他者との交流を通して深めた考えを表現する子ども
  - ・助け合う子ども……他者の思いに共感し、思いやり、助け合う、人間性豊かな子ども
  - ・たくましい子ども…心身ともに健康で、粘り強く課題に立ち向かう子ども
- ② 目指す学校像「誰にでも居場所がある学校」を継続。
  - 「児童一人一人の相互承認」を推進しながら「協働による実践」を繰り返し、それによって、集団活動での「安心感・達成感の蓄積」を進め「主体的実践意欲の維持・充実」を図りながら、相互承認を充実させていく。前述の4点を循環させることで、「自己肯定感及び自己有用感の醸成」を目指し、教育目標の具現化を図る。

### (2) 重点目標

- ① 3つの重点目標を一部修正及び育てたい児童の姿勢・意欲・態度等を修正した。
  - 探究的な学びの確立：せたがや探究的な学びのプロセスを循環させ、誰一人置き去りにしない探究的な学びを実践する。
  - 豊かな人間性の育成：規律を重視し、個に応じた適切な指導・支援を行うことにより、児童の自己肯定感を醸成し、主体的実践意欲を育成する。
  - 健やかな心身の育成：自己の心身の状況について適切に把握する指導を行い、心身の健康増進に向けた取組を継続しようとする態度を育成する。

### (3) 教育目標及び重点目標を達成するための基本方針

令和7年度世田谷区最重点教育課題である『キャリア・未来デザイン教育』の推進に向けて、以下の方法により実現を図る。

- ① 課題解決的な学習の展開「せたがや探究的な学び」の実践による授業改善、ICT活用
- ② キャリア教育の充実、キャリアパスポートの活用、幼保小中間の連携、地域との連携
- ③ 「挨拶」「返事」「感謝と謝罪」を中心としたコミュニケーション能力の向上
- ④ 人権尊重の精神に基づく人権教育の推進、自己肯定感、実践意欲や主体性の伸長
- ⑤ 規範意識の醸成と集団貢献意欲の育成
- ⑥ 個性や能力、発達特性等の多様性を理解し個々の教育的ニーズに応じた教育の充実
- ⑦ 学校協議会、学校運営委員会、学校支援地域本部との連携の充実